



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行人 末吉卓也 1部60円年間共1100円



祖国を離れ鹿兒島教区助祭に ベトナム人神学生ティエンさん

二月十一日(土)鹿兒島カトリック教区初のベトナム人助祭が誕生した。この日、助祭にあげられたのは昨年五月来鹿し、司教区五十周年記念ミサ(九月十九日)で助祭・司祭候補者の認定を受けていたガブリエル・ジュオン・ウアン・クオク・ティエンさん(二十九歳)。生まれ故郷ベトナムでシトー会神学校(一九九四年)、ホーチミン大学社会学部(一九九九年)を卒業しており、現在は福岡サン・スルピス大神学院に学んでいる。午後二時から始められた助祭叙階式は郡山健次郎司教と二十人を超える司祭



聖書を受け取るティエンさん

とも紹介、彼の存在は重要になってくると説いた。その後の叙階式では、永山幸弘神父がティエン神学生が助祭としてふさわしい者であることを証言、これを受けて郡山司教は助祭団に加える旨を宣言した。その後の訓戒で助祭としての務めを聞き、独身生活や司教と共に教区のために働

愛する兄弟姉妹の皆さん、四旬節は、いつくしみの源である神へと向かう、内的な旅路のための特別な時です。この巡礼の旅路では、神ご自身が、何も持たずに荒野を進むわたしたちとともに生まれ、復活祭の大いなる喜びに向かうわたしたちを励ましてくださいます。わたしはあらためて、今日盛んに議論されている開発の問題を省みたいと思います。わたしの尊敬する先任者、教皇パウロ六世は、低開発問題をめぐる恥ずべき行為を、人間性を踏みにじるものとして、的確に表現しました。パウロ六世は、悪への対抗手段として、「他者の尊厳に對するふさわしい評価、貧しさの精神を求める心、共同福祉増

大規模な人事異動を発表 総代理に小川靖忠神父

二月二十一日(火)、教区長が糸永真一司教から郡山健次郎司教に替わって最初の教区司祭会が教区本部で開かれた。主な議題は、教区司祭の人事、「新求道共同体」(高松教区)司祭の契約、ティエン助祭の叙階式(九月三日午後二時)、アン神学生の司祭叙階後の生活などである。会議は郡山司教の司会が進められ、まず、人事異動の発表がなされた。司教総代理は、小川靖忠神父。その他十四の小教区の主任司祭が異動する大幅な人事となった。この日発表になった人

- 事は次の通り。
- ### 教区人事
- ▼ 竹山 昭神父 (司教総代理・本部長) 紫原教区 会主任
 - ▼ 永山幸弘神父 (ザビエル主任) マリア山荘
 - ▼ 松森孝郎神父 (マリア山荘) ザビエル教会助任
 - ▼ 牧山田一神父 (指宿主任) 吉野教会主任及び同園園長
 - ▼ 美島春雄神父 (大熊主任) ザビエル教会主任
 - ▼ 小隈憲士神父 (始良主任) 教区会計部長) 聖心教会主任
 - ▼ 寝占敦之神父 (瀬留主任) 指宿教会主任及び同園園長
 - ▼ 松田清四朗神父 (コンベンツアル会) 志布志教会主任及び同園園長
 - ▼ 中野裕明神父 (聖心主任) 教区本部付き。教区書記長及び教区会計部長
 - ▼ 泉 浩二神父 (鴨池主任) 加世田教会主任及び同園園長
 - ▼ 末吉卓也神父 (ザビエル助任・教区広報部長) 瀬留教会主任
 - ▼ 木村敏彦神父 (小宿主任) 病氣療養) 鴨池教会協力司祭
 - ▼ 小川靖忠神父 (加世田主任) 司教総代理・鴨池主任及び同園園長
 - ▼ フランシスコ・マリオン神父 (聖ザベリオ宣教会) 始良教会主任
 - ▼ ホルヘ・ソーサ神父 (高松教区) 小宿教会主任
 - ▼ 郡山健次郎司教 (志布志主任) 教区本部
 - ▼ 田原 章神父 (垂水主任) 留任
 - ▼ 大野和夫神父 (奄美大島地区長) 留任
 - ▼ オロフォ・ベルナルデイノ神父 (種子島主任) 留任
- (二月二十一日付発表。着任はいずれも四月一日)
- 中高生の
長崎巡礼は中止
三月二十八日(火)から三十日(木)まで二泊三日で予定されていた春休み恒例の「中高生の長崎巡礼―受け継がれた信仰―」は、担当者の転任に伴い中止となった。

進のための協力、平和への望み」だけなく、「人間として最高の善と、その源であり終極である神を把握すること」も挙げました。教会が人類と各民族の開発について第一に貢献できることは、単なる物質的な手段または技術的な解決策によるものではなく、良心を養成し、人間と労働の真の尊厳を教えるキリストの真理を告げ知らせることです。二〇〇六年 四旬節メッセージ(要約) 「イエスは、群衆を見て、深く憐れまれた」(マタイ9:36)

世界は、悪への対抗手段として、「他者の尊厳に對するふさわしい評価、貧しさの精神を求める心、共同福祉増進のための協力、平和への望み」だけなく、「人間として最高の善と、その源であり終極である神を把握すること」も挙げました。教会が人類と各民族の開発について第一に貢献できることは、単なる物質的な手段または技術的な解決策によるものではなく、良心を養成し、人間と労働の真の尊厳を教えるキリストの真理を告げ知らせることです。二〇〇五年九月二十九日

省略と沈黙のメッセージ

聖書の人間理解 (最終回) 竹山 昭

「聖書の人間理解」と題して、創世記の「原初史」と言われる部分(一・1-11・32)に現れる人間観を探ってみようとしてきました。その間、触れたり展開したりすることのできなかったことが、もいくつもあります。そのすべてを取り扱うことはできませんが、連載を終るに当たって、私の個人的な疑問や驚きを引起こした箇所から二箇所だけを取り上げてみましょう。

かじも帆もない船

神が人類の悪がはびこったのを、驚かすために洪水によって滅ぼすことを決意されたとき、ノアとその家族だけはすべての生き物一つがいと共、箱船によって救われます。その場面で、祭司伝承による物語では、神がノアに箱船の構造を示して造らせました。それはそれは詳しいもので、(六・14、16参照)。

ゴフェルを材料として木の箱船を造れ。内側と外側をタールで防水し、小部屋をその中にいくつも造ること。箱船のサイズは、長さが百三十五メートル、幅二十二・五メートル、高さ十三・五メートルにせよ。三階建てで、屋根の下には明かり取りを、側面には戸口を造れ、とこんな具合です。

「これだけ大きいのに、この舟にはかじもなければ、帆もない！」思わずそう叫びま

した。そう言えばずっと以前にある学者の指摘を読んだことを思い出します。この箱船にはこれを動かすための機関や道具が一切触れられていない。そう述べてありました。

祭司伝承が、うっかりして帆と櫂やかじをつけることを忘れたのだと言いたいところですが、それは現実味をもたない。祭司伝承は緻密で整然とした書き方がその特徴だからです。だとすれば、先の学者が言うように、「帆も櫂もかじもない」このふねは「自力では航行できない舟なのです」(今橋明「私たちの創世記」)。

確かにこの舟はノアが自発的に考案したものではないかもしれません。いわば「人間のごさかしい発明品ではない」この舟は、ノアと箱船の生き物の救いが神のみ手に委ねられていることを暗示するものなのでしょう。それにしても、見事な「省略法」だと感心します。

受け取られなかった

供え物

「カインとアベル」物語で、神がカインの供え物に目を留められなかったことが、アベル殺しのきっかけになります。しかし、どうしてアベルの供え物であって、カインの供え物ではないのか、聖書は全くその理由を述べません。

その説明のうちに、いろいろな学者の説明を紹介し、

結局は「不条理の謎」と言う

しかない、と述べました。ただ、私自身も、その理由を考えてみたことは確かです。そのおりに、「供え物」や「贈り物」とは何だろうと思わざるをえません。

贈り物をするのを英語では present と言いますがラテン語の「前に置く」から来た言葉です。何を「前に置く」のかといえば、それは無論「自分自身」、あるいは「じぶんのこころ」とでも言うしかありません。ひとが、心を込めた何かのものを託して、自分自身を相手に贈る行為が贈り物ということになるでしょう。

従って、贈り物の価値は、そのものが上等のものであるかどうか、高価であるかどうかというよりも、むしろ、それがどれだけ自分の心を込めたものであるかによるのだと言えます。

贈り物は、当然、贈る人の全く自由な行為、心から出てくる行為でなければ意味がありません。強制されるなら、それは「贈り物」というよりも「貢ぎ物」になるでしょう。

しかしまた、贈り物がそういうものであるかぎり、受け取る側も自由に受け取るものであるに違いありません。強制されたり、その代償を求められるものであれば、もはや「贈り物」とはいえず、一種の取引めいたものになり変わります。

「贈り物」が贈り物であるかぎり、それは受け取ってもらえない可能性、拒否される可能性を本質的に含むのだといわざるをえません。「当然そうなる」べきものではないことが、なぜかそうなることを「恵み」といえるなら、贈り物が受け入れられることも、恵みであるのでしょうか。

では、いつかまた、この紙面でお会いするまで。

教皇様への

子供たちの質問③

リヴィア「聖体拝領をするときには、いつでもゆるしの秘跡を受けなければならぬのですか。同じ罪を犯しているときでも、ゆるしの秘跡を受けなければいけませんか。なぜかという、わたしはいつも同じ罪を犯しているように思えるからです」。

教皇「二つのことを申し上げたいと思います。ゆるしの秘跡を受けなければならぬのは、本当に重い罪を犯したときや、イエスに深く背くようなことをしたときだけです。つまり、あなたがイエスと持っていた友だちとしての関係がこわれて、もう一度やりなおさなければならなくなったときです。大罪を犯したときにだけ、聖体拝領を受ける前にゆるしの秘跡を受けなければなりません。これが第一に

二番目は、このことです。ある程度定期的にゆるしの秘跡を受けるのは、役に立ちます。ごみはいつも同じですが、わたしたちは、少なくとも週に一度は、家や部屋のそうじをします。もし、そうじをしなければ、ごみは目には見えなくても、たまっていります。同じようなことが心にもいえます。わたしにもいえます。もし一度もゆるしの秘跡を受けなければ、心のことがおろそかになります。すると、いつでも自己満足してしまい、自分がいともよくなるように努力しなければならぬこと、自分が進歩しなければならぬことを、忘れてしまおうとして、ゆるしの秘跡によって、イエスは、わたしたちの心をきれいにしてください。わたしたちの心がきれいになると、わたしたちの良心はもつと注意深くなりますし、もつといろいろなことに気づくようになります。それで、わたしたちはもつと大人の心をもてるようになります。また、人間らしくなることができます。(カトリック中央協議会司教協議会秘書室研究企画訳の抜粋)

す。ごみはいつも同じですが、わたしたちは、少なくとも週に一度は、家や部屋のそうじをします。もし、そうじをしなければ、ごみは目には見えなくても、たまっていります。同じようなことが心にもいえます。わたしにもいえます。もし一度もゆるしの秘跡を受けなければ、心のことがおろそかになります。すると、いつでも自己満足してしまい、自分がいともよくなるように努力しなければならぬこと、自分が進歩しなければならぬことを、忘れてしまおうとして、ゆるしの秘跡によって、イエスは、わたしたちの心をきれいにしてください。わたしたちの心がきれいになると、わたしたちの良心はもつと注意深くなりますし、もつといろいろなことに気づくようになります。それで、わたしたちはもつと大人の心をもてるようになります。また、人間らしくなることができます。(カトリック中央協議会司教協議会秘書室研究企画訳の抜粋)

<KABAYAN SEKSIYON>

"Pagpahayag ng Pananampalataya"

Unang Kabanata: Ang tungkulin ng tao para sa Diyos. Sa buwan ng Marso ang pagninilay-nilayan natin ay ang tungkol sa "Pagnais para sa Diyos". Habang nabubuhay tayo sa mundo, marami tayong ninanais sa buhay. Gusto nating maging maginhawa ang buhay, kaya nagsisikap tayong magtrabaho. Hindi masama ang magnais ng bagay na ito, kailangan natin ito para sa araw-araw ng ating pamumuhay. Subalit huwag tayong maging alipin ng pagnais na ito. Kailangan din natin na naisin ang para sa Diyos. Ang pagnais para sa Diyos ay nakasulat na sa puso ng tao, dahil ang tao ay nilikha ng Diyos at para sa Diyos. At ang Diyos ay hindi tumitigil na mapalapit ang tao sa kanya. Dahil sa Diyos lang makukuha ng tao ang katotohanan at kaligayahan na hindi siya titigil na hanapin ito: Dahil ang karangalan ng tao ay nakalaan na, higit sa lahat siya ay tinatawag na makiisa sa Diyos. Ang paanyaya na makipag-usap sa Diyos ay itinalaga na sa tao mula ng siya ay nilikha. At ang pananatili ng buhay ng tao ay dahil nilikha siya ng Diyos sa pamamagitan ng pag-ibig at sa pag-ibig na ito ang tao ay mananatiling mabubuhay. Ang tao ay hindi ganap na mabubuhay sa katotohanan hanggang hindi niya kikilalanin ang pag-ibig na ipinagkatiwala sa kanya ng kanyang may Likha. Sa maraming pamamaraan, at sa buong kasaysayan hanggang sa ngayon, ang tao ay binigyan ng pagpahayag ng kanyang pagnais para sa Diyos sa kanilang banal na paniniwala at kilos: sa pagdarasal, paghandang, ritwals, pagninilay-nilay at iba. Ang mga porma ng banal na pagpahayag, kahit na may pagdududa dinadala nila ito at pandaigdigang na tinatawag na banal na nilikha ang tao. Subalit ang "pakikiisa ng tao sa Diyos" ay pwedeng makalimutan, hindi bigyan ng pansin o tanggihan ng tao. Ang pag-uugaling ito ay may ibat-ibatang dahilan: paghimagisik kontra sa mundo ng kasamaan, kawalan ng kinalaman sa relihiyon, pagpahalaga ng yaman ng mundo, isakandalo ng masamang halimbawa sa parte ng na nampalataya, hadlang na pag-iisip hinggil sa relihiyon, at ang panghuli, itong sa loobin ng makasalanang tao ay nagbibigay sa kanya ng takot at pagtago sa Diyos at tumatakas sa kanyang tawag.

Nasusulat sa salmo 105:3 "Matuwa ang mga pusong humahanap sa Panginoon". Kahit na makalimutan o tanggihan ang Diyos, Siya ay hindi tumitigil na tawagin ang bawat tao na hanapin siya, para makita ang buhay at kaligayahan. Subalit ang paghahanap para sa Diyos kailangan na ang tao ay may matatag na sa loobin at talino, "busilak na puso" at ang pagsaksi ng iba na turuan siyang hanapin ang Diyos. Hinahanap mo ba ang Diyos Kababayan?

3月

1日(水) 灰の水曜日(大斎・小斎)

四旬節「愛の献金」

教皇は毎年、四旬節に向けてメッセージを発表し、キリストを信じるすべての人が四旬節の精神をよく理解して、回心と愛のわざに励むよう呼びかけます。この呼びかけにこたえて日本のカトリック教会は、虐げられ、差別され、見捨てられ、いのちの危機にさらされている人々との共感を大切にするよう一人ひとりに訴えるとともに、四旬節中の「愛の献金」を奨励しています。

この「愛の献金」は、カリタスジャパンを通して海外諸国と日本各地に送られ、難民や孤児、そして、貧困、失業、飢餓などに苦しむ多くの人々のいのちを守るために、また彼らの自立を助けるために使われます。

- 5日(日) 四旬節第一主日
- 12日(日) 四旬節第二主日
- 15日(水) 畑中辰雄神父命日(一九七四年)
- 17日(金) 田原章神父叙階記念(一九五三年)
- 18日(土) アン神学生助祭叙階式・フィリピン
- 19日(日) 四旬節第三主日
- 20日(月) ゼローム神父命日(二〇〇三年)
- 20日(月) 聖ヨセフ(ムイベルガ神父、サンタマリア神父、大野和夫神父、牧山田一神父霊名)
- 21日(火) 「叙階記念日」郡山健次郎司教(一九七二年)、浜田盛茂神父(一九六六年)、永山幸弘神父(一九八八年)、寝占敦之神父(一九八三年)、木村敏彦神父(一九八六年)、頭島光神父(一九八七年)、大松正弘神父(一九八七年)、小隈憲士神父(一九八八年)、石田望神父(二〇〇三年)、末吉早也神父(二〇〇三年)
- 22日(水) 国原武志神父叙階記念(一九五八年)
- 25日(土) 神のお告げ
- 26日(日) 泉 浩(二)神父叙階記念(一九九三年)
- 27日(月) 四旬節第四主日
- 27日(月) コンタリーニ神父命日(一九九八年)
- 28日(火) 島田喜藏神父命日(一九四八年)
- 28日(火) 田辺徹神父叙階記念(一九五一年)
- 29日(水) 明松善吉神父命日(一九九二年)
- 29日(水) 内野洋平神父叙階記念(二〇〇三年)
- 31日(金) 河野純徳神父命日(一九八九年)

新司教は奄美の信仰の実り

聖心教会に五百人が集まり

奄美大島出身の教区長誕生を祝う

奄美大島地区での郡山司教叙階記念ミサが二月十九日(日)午前十時から名瀬聖心教会でささげられた。聖堂には大島全島から参集した約五百人の信徒・修道者であふれた。ミサは各教会からの二十五人の侍者と八人の司祭の共同司式で進められた。

郡山司教は説教の中で、その日の第一朗読を取り上げ「初めからのことを思い出すな、見よ、新しいことをわたしは行おう」という預言者イザヤの言葉を繰り返して読んで黙想するように勧め、神の愛の深さに気付くようにと論じた。

共同祈願は七つの小教区がそれぞれ、新司教の

上に神の祝福を願うと共に、教会の発展のために、奉仕する決意を表明した。祝賀会は会場を奄美観光ホテルに移して正午から行われ、会場は四百人で埋め尽くされた。

挨拶に立った奄美大島地区長の野村神父は鹿児島教区に赴かれたことの意味を

郡山健次郎司教誕生の祝宴の席で、その親族達から贈られた歌群「パウロの如く」。「どんな歌だったのか知りたい」という読者の要望にこたえて紹介したい。

郡山司教に贈られた歌

南より北より古き顔寄りて
なつかしきかなみな喜び

ミサを知らぬ人もまじりて村人は
バスに溢れて今着くところ

祭壇のま白き壁に虹なして
朝日の差すを見つみサ待つ

入堂の賛歌鳴るとき司祭団
聖堂に入れり十字架捧げ

金色の杖携えてわが司教
子に添ひきます父のごとくに

青春を捧げまつらく祭壇に
今か赴くわが子の姿

行けよ子よ行きて万民に教へよと
み声は天に今日もどろく

父母の親族のみかは潮なす
祈りは絶えじ汝がうしろにて

司教接手の儀おごそかに成りて子は
今挙げられぬキリストの司祭に

子はまさに主の祭壇に血の杯
捧げて立てり尊き司祭

おもむろに胸にみだのこみあげて
わが感動は身うちを燃やす

身は独りに成り果つるとも踏みこえて
ひるむこと勿れパウロの如く

一九七二年三月二十日

健次郎・司教叙階の日に

父・為業

説き明かした。それは、明治期に、宣教師が遠い祖国を後にして来島し、命を懸けて蒔いた福音の種が根付いた後、日本の軍事国家下での迫害の苦難を乗り越えて成長した信仰の実りでもある。そして、郡山新司教

ただ隣人になりたくて

活動続けるザビエル教会夜回り会

ザビエル教会にやってきた男性に「〇〇さん、元気だった？」と気軽に声をかける山田敏子さん。実はこの男性、決まった住所を持たないいわゆるホームレスと言われる人である。最近、教会でこんな方たちの姿がよく見られるようになった。ザビエル書院を切り盛りしながら、こんな小さな人を励ます彼女は、ザビエル教会が中心となって活動している「ザビエル教会夜回りの会」で世話人を務めている。

ザビエル教会夜回りの会がスタートしたのは、二〇〇四年一月のこと。毎週土曜日の夜七時からホームレスに食事を届ける活動を続け、二月十九日の活動で百七回に達した。

「あなたたちのために用意した」との思いを伝えるために、彼らに届けるのは



活動前に祈りをささげる会員たち

調によっては、イエスのご愛容から十字架の死に至るまでの行程を想起しながら、司教叙階式はいわばご変容の場面であって、これから十字架へ向かう本番が始まる。従って、司教も信徒も新司教と共に歩んで行こうと参列者を励ました。

郡山司教は会食の合間に、会場を回り、参加者全員とあいさつを交わした。この日は、終始、小雨模様だったが、参加者の顔は喜びで輝いていた。

炊き立てのご飯で握った「ホカホカのおにぎり」。これにみそ汁(二月から三月の寒い時期には豚汁)を付けて振る舞う。また第四土曜日の献立はカレーという心の込めようである。「誰かがあなたたちを心に留めている」ことを伝えたいと、ただそれだけの地道な活動だ。

甲突川沿いの公園や桜

全国のカトリックの青年が集い情報交換や交流が行われるネットワークミーティング(NWM)が、二月十一日(二泊二日)に群馬県で開かれた。

毎年二回、九月と二月に開かれるこの集いは年々参加者も増え、今回は「ともによるこび」をテーマに十一教区から九十人余りの青年や司祭、修道者が参加し、レクリエーションや分か

島根橋を巡ることから始められた活動も、今ではスタッフの事情もあつて専らザビエル公園で行われる。会員たちにとって気がかりなのは高齢や体調不良によつては、ザビエル公園まで足を運ぶことができない人がいるのではないかとということ。心は痛い。それでも三十人余りの人たちが、薄暗い公園に夕食を求めてやってくる。時々、街中で見かけたことのある人の姿も見受けられる。

おにぎりをほお張ると彼らは笑顔を見せ、会のメンバーに近況を告げる。体

ち合いを通してお互いの活動の情報交換や交流が行われた。

続いて行われたNWM

「教会音楽」などに関する

調によつては会員から薬をもらって寝床へと帰って行く。週末のネオン街の傍らに、現代の落し子のような人たちがいる。そしてそんな彼らに思いをかける人たちがいる。現在夜回り会のメンバーは、隔週で参加してくれる人や月二回彼らの散髪に駆けつけてくれる人など五、六人。「彼らと深くかわつてくれる男性がもつといたら」と希望はあるが、それでも米や梅干し、活動費を寄付してくれる人、裏方として調理を担当してくれる人などいる。

教会でも彼らホームレスの人たちのためにシャワーを設置してくれた。週一回、火曜日に数人のおじさんたちが汚れを落しにやってくる。そしてそのためにもボランティアとして市内教会から駆けつけてくれる人たちがいる。

こんなかわりを持ち

広がる青年の交流

群馬県でネットワークミーティング

を後援する「カトリック青年連絡協議会」では、鹿児島教区を含む十一教区の青年活動の様子が報告され、

青年の活動などが報告された。また、青年が各地に移動した際に、教会の青年を紹介し合える窓口を設けよ

続けた結果、数人が社会復帰できたという。「大きな喜び」とメンバーは語る。

活動を始める前にマザーテレサの「わたしをお使いください」と祈りをささげ暗闇の公園に足を運び奉仕する会員たち。薄暗い冷たい風の吹く公園の中で、会員とおじさんたちが交わる場だけが不思議と温かかった。

学園情報

▼聖マリア学園
教区が経営する学校法人聖マリア学園では、教区長交代に伴い理事長の交代を発表した。新理事長は田原章神父(垂水教会主任)。

黙想会のお知らせ

日時：3月24日(金) 10時30分
場所：ザビエル教会一階ホール
指導：郡山健次郎司教
鹿児島カトリック女性信徒の会

一九九八年から続くこの青年独自のネットワークを大切にしている。これらの活動を通して教区の青年活動もより活発になることに期待したい。

青年連絡協議会HP
<http://www.catholic.gr.jp/youth/onet/>

悲しみの聖母

青年信徒

先日、仕事の都合で東京へ行ったとき、上野駅でぶらりと降りて普段は縁遠い「国立西洋美術館」に立ち寄った。前庭にロダンの「アダム」と「エヴァ」の像と並んで、「地獄の門」がそびえ立っていた。その真つ黒な門は人間がもつ様々な苦悩を表すような庄倒的な存在感をもっていた。私はこの門に威圧され

声

ているかのように感じながら、「すごいものを見たな」という少し高揚した気持ちと闇の中をのぞいたような怖さがあった。美術館の深い藍色のペールを被っている。その伏し目がちな顔には影がかかり、マリア様の深い悲しみを表している。しかし、固く合わせた両の手は明るくはつきり描かれ、深い悲しみの中にありながらも、神様の恵みへの信頼と希望を忘れていないことを印象付けるものだった。お告げを受けた時のマリア様の信仰、カナの婚宴でのイエス様への信頼、十字架上のイエス様を見つめ続ける姿が脳裏によみがえってきた。そして、金色に描かれたマリア様の後光を見て、郡山司教様の紋章とモットーを思い出した。なにか重い鎖が切れて自由になったような感じがした。

「刊行物紹介」

『ゼーヘル』

真生会館聖書センター発行、編集責任者 雨宮慧神父 著。有名な聖書学者である雨宮神父が、毎週一回、日曜日に発行している。B五版十六頁。これまで日曜日の朗読箇所解説として「主日の福音資料集」から始まって現在の「ゼーヘル」まで永



ザビエルさまの敬慕道 殉教者の心と司教の紋章

郡山司教の紋章！見ました？ 真つ黒な十字架に光が差し鳩が羽を広げています。最初見たときは正直びっくり。「なんだか暗いなあ」と思いました。でも「それでも、喜び・希望・感謝」のモットーを味わうにつれ、私たちの身近にある暗い闇の深さと冷たさ、それを照らす光の温かさ明るさ大切さ、光に導こうと力強く羽ばたく鳩の心強さが心を揺さぶります。この紋章を見て遠藤周作の「沈黙」と川内殉教祭で溝部司教が語った殉教者の心とこの紋章が重

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

純心学園 山頭信子 着ぶくれてガラスに写すシスターかな (評)「着ぶくれて」が好感を与えてよい。

名瀬 松畑義弘 沖を飛ぶ群雲早し冬満月 (評)「群雲早し」が佳句とした。

鹿兒島 久保孝子 麗らかに司教叙階式はじまりぬ 鹿兒島 徳永ノブ子 年々に春待つところこまやかに

出水 遠竹睦郎 山脈の色移りゆく春進む 鹿兒島 本城 愛 十字架の消えゆく程の牡丹雪

純心学園 田村鏡子 無沙汰して安否をつける賀状かな

「評」「安否をつける」がよい。

鹿兒島 春山マリ子 お正月お餅のようにふんわりと 純心学園 川上 和 グランドを乙女と走る雪だるま 鹿兒島 龍門司真人 美しきみことば知りぬ夜半の夢

短歌 (思川短歌会作品)

純心学園 川上 和 み言葉を導く霊の豊かさに叙階の賛歌 鹿かにひびく 出水 泉みどり 一人居の隣人よりの交信に病を知りて夕餉届けむ (評) 心温まる結句がよい。

名瀬 林 明子 元気でしかあなたのことをうらみません トキメキながらすごした日々は 親しみやすし

明光学園 森 博伸 花ことば思い出せないフリージア妻と私の記念日の花 (評) 名詞止めが一首を重くしてよい。

古仁屋 豊島忠司 猫背曲げ球拾ふさま痛々し九十五翁の指先の春 阿久根 中津濱フサエ 新しく迎へし郡山司教春風吹きて咲くさくらかな

出水 遠竹睦郎 新幹線見ゆる小高き公園に登れば春鳥の声四方より聞こゆ 鹿兒島 春山マリ子 肉親の温り今は夢の中優しき父母に涙をそいで

鹿兒島 田平新太郎 道行きに倣ひ給ひし新司教誓ふことはしめす尊き 平のみことばにふす新司教近よりがたく



あなたの質問箱



答え 儀式書には次のように記されています。その文言を紹介いたします。 指輪「忠実のしるしである指輪を受けなさい。くもりのない信仰をもって、神の花嫁である聖なる教会を清く保ちなさい」 ミトラ「あなたの中で聖性が輝き、牧者たちの主が来られるとき、朽ちることのない栄光の冠をいただくことができますように」 司教杖(バクルス)「牧者の務めのあるしるしである杖を受け、群れ全体に心を配りなさい。その群れの中で、あなたは聖霊によって、神の教会を治める司教として立てられたのです」 いずれも司教職の性格をよく表したものです。

第二回ザビエル教会主催 オルガンコンサート

期日：3月11日(土) 18時30分開演 テーマ：「J・S・BACH―受難節によせて―」 演奏：高坂 暢(こうさか のぶ)氏 ドイツ国立フランクフルト音楽大学卒業 会場：ザビエル教会 入場料：全席一、〇〇〇円



カトリック新聞 1部本体価格150円(税・送料別) 購読料金(前納、税・送料込) 半年4740円・1年9480円 見本紙贈呈いたします へえ、日本の教会は今こうなんだ・・・ ザビエル カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。 〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社 TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com